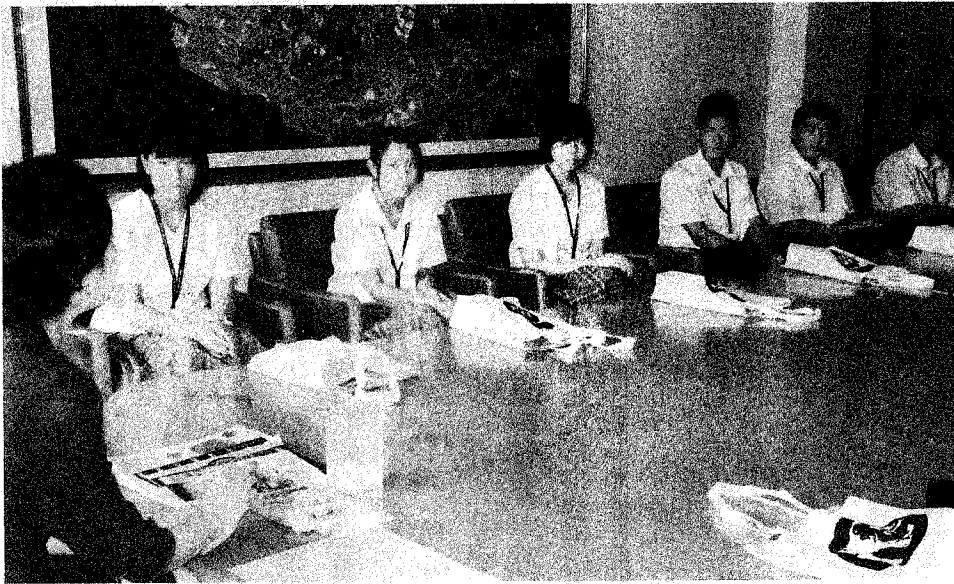


公害克服の宇部方式学ぶ スタディーツアーで水俣の高校生

「子どものためのスタディーツアー」として、水俣市の高校生9人が5日まで宇部を訪れている。久保田后子市長から話を聞いた後、石炭記念館や宇部興産を見学した



久保田市長の話を聞く水俣高の生徒たち（市役所で）

りして、ばいじん都市から「緑と花と彫刻のまち」に生まれ変わった宇部の歩みを学んでいる。

2012年に宇部で開催された環境先進自治体首長サミットを機に、宇

部と水俣、対馬の3市は持続可能な社会づくりを地域から実践していく共同宣言を採択し、その一環として同ツアーを毎年実施している。水俣高の生徒たちは3日に来宇

し、2泊3日で市内や美祿市を見て回っている。

3日に市役所を訪れた一行は、ばいじん公害を克服するまでの歩みや、産官学民連携の原点といえる宇部方式、UBEピエンナーレや記念会館の歴史などについて、久保田市長から説明を受けた。田頭彩香さん（同高

2年）は「公害を克服し、環境都市として生まれ変わったという点で、宇部市と水俣市は学び合っべきところが多くあると思うので、このツアーで一生懸命に見聞きたい」と話した。

4日午後は、宇部高生と交流・意見交換する。

（中尾）